

事項一四 日本国及勞農露國間國交問題關係一件

二八〇 二月二十日 在瑞典國烟公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

對露貿易ノ準備調査ノ為適宜措置方佐々木領

事ヨリ稟請ノ件

第五五号 (二月二十一日接受)

佐々木ヨリ左ノ通

最近接到セル日本電報通信ニ依レバ大連會議ハ益々有望ナリト云ヒ「ゼノア」會議ニ於テハ歐洲諸国ガ露國ヲ承認スルニ至ルベシト尊セラル今日世界ノ大勢ハ何時迄モ露國ヲ現状ノ儘ニ放任セズ対露政策ニ一転機ヲ來スノ氣運ニ向ヘルモノト見ルヲ至当トスルニ至レリ而シテ目下対露貿易ノ現状ヲ見ルニ米國ガ一千万福借款ノ代償トシテ種子食料品ヲ供給セル外多クハ列國商人ガ冒險的取引ヲ為スニ過ギズ(不明)ニ復セリト云フヲ得ズ(公第八号参照)然レドモ英、独、伊、「チエコスロヴァキア」ヲ始メ波羅的及「スカンドナビヤ」諸國ハ悉ク「コンマーシアル、デレゲ

ート」ヲ莫斯科ニ派遣シ米國モ亦最近「リーガ」ニ商業代表者ヲ派遣セルヤノ報ニ接セリ日本ノ對露關係ハ極東ニ重キヲ置クハ勿論ナレドモ極東ノ問題ハ歐露ヲ無視シテ解決シ能ハザルハ大連會議ニ於テ御承知ノ通ナルノミナラズ対露貿易ニ於ケル生糸製茶ノ如キ重要輸出品ハ欧露市場ヲ主眼トスルモノナレバ此際帝国モ亦列國ノ例ニ倣ヒ商務官若クハ商業視察員ヲ當方面ニ派駐シ露國へ入國シ得ル時期ニ到達セハ直チニ前進シテ列國ト共ニ均等ノ機會ヲ捕捉スルニ後レザルノ準備ヲ要スト思考ス会社商店ノ代表者ヲシテ前記ノ目的ヲ以テ當方面ニ駐留シテ對露貿易ノ調査ニ從事センコトヲ希望スルモノアラバ農商務省ト協議シテ實業練習生ノ名義ヲ与フルカ然ラザレバ同省海外實業獎勵費中ヨリ相当ノ補助ヲ与フルモ一案カト思考ス右ニ對シ何分ノ御考量加ヘラレンコトヲ切望ニ不堪

二八一 六月十六日 在波蘭國川上公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

現下露國ニ對シ我方ノ執ルベキ方策ニ付意見 稟申ノ件

第七三号 (極秘)

(六月十八日接受)

露国内外ノ政況ニ鑑ミ「レー寧」ガ特殊ノ事變ナキ限り永ク政權ヲ把持スベシ又仮ニ「レー寧」ヲ失フトモ其ノ後繼者ハ依然過激主義者ナルベキコトニ関シテハ客年七月往電(註)第四六号ヲ以テ卑見開陳ニ及ビ置キタル通ナルガ其後莫斯科政府ノ基礎ハ更ニ強固トナリ又永続的トナリ今ヤ急ニ之ニ代ルベキ別種ノ新政府ヲ樹立スルガ如キ殆ド絶対ニ不可能ナル狀態ニ進ミツツアルハ現今内外人ノ殆ド一般ニ認ムル所ナリ

顧レバ過般ノ大連會議ガ華盛頓及「ゼノア」會議ノ為終ニ失敗ニ終リタルヤノ観ナキニ非ザルモ最初ヨリ莫斯科政府ヲ閔与セシメズ啻ニ極東共和國政府ノミヲ相手トシテ談判スルモ結局何等ノ効果ナカルベキハ等シク前記拙電中ニ反覆開陳セル所ナリ帝国政府が一面實質上共產主義ヲ執リ且莫斯科政府ノ指揮監督ヲ受ケツツアル者多政府ト交渉シツツ他面莫斯科政府ノ希望ニ反シ其ノ代表者ヲ右會議ニ参加セシメザラントセルハ世人ノ諒解ニ苦シム所ニシテ帝国政

一四 日本国及労農露国間国交問題関係一件 二八一

三七八

ノ接壤国ハ殆ド總テ正式ニト交通ヲ開キ英独伊等ノ列強又既ニ労農政府ト通商取極ラナン各々其代表者ヲ露国ト交換シ米国ニ於テモ種々ノ形式及方法ニ依リ其銀行業家ハ勿論其代表的人物ヲ入露セシメ何レモ通商ノ準備ニ汲タルニ於テヲヤ爾来本邦ニ於テハ動モスレバ我對露關係ハ極東露領ニ限ラルモノノ如ク論ゼラルモ之皮相ノ観ニ過ギズ戰前ニ於ケル露国ノ通商關係ハ必ズシモ極東ニ限ラズ寧ロ歐露ノ關係一層重大ナリシノミナラズ歐露ニ於ケル中央政府及其通商機関ト密接ナル連絡ヲ有セザレバ極東ニ於ケル案件ハ公私共ニ円滑ニ取運ビ得ザリシハ吾人ノ記憶ニナル所ナリ抑極東共和国ヲ以テ完全ナル獨立國ト見做シ又ハ同國ノ声明スル非共產主義ニ信頼スルガ如キハ不用意ノ甚ダシキモノニシテ革命後莫斯科政府ガ各地方ニ対シ独立又ハ自治ノ名義ヲ貸シ且之ヲ外国ニ吹聴スルモ一億三千万ノ露國民ヲ背景トスル莫斯科政府ノ帝國主義ハ帝政時代ノ夫ト異ルトコロナク内民族ヲ操縦シ外列國ヲ欺罔スルノ政策ニ外ナラズ多數共和国ト云フモ要スルニ全露國ノ一部分ニ過ギズ事大小トナク莫斯科政府ノ意志ニ反シテ決定セラルルコトナキハ露国ノ現状ニ通ズル独波各国

人ノ断言シテ憚ラザルトコロナリ今、日露間ノ懸案解決ニ臨ミ莫斯科政府ハ昨今資金ノ欠乏ヲ訴ヘツツアル矢先ナレバ尼港問題解決ノ意味ヲ以テ一定ノ金額ヲ提供シテ権太ノ一半ヲ買取り又ハ永代租借スルモ一法タルベク然ラザレバ少クトモ勘察加及権太ニ優越ナル利權ヲ讓渡セシムルコトキ極東共和国ノ非共產主義声明、浦鹽防備撤廃、軍事委員ノ極東要地駐在等黒キヲ白シト云ハシメ又戰捷者ガ戰敗者ニ対スルガ如キ觀フ呈スルノミナラズ先方ノ敵愾心ヲ煽ルノ外大ナル実益ナキ主張ハ寧ロ之ヲ破棄スルニ如カズト思惟セラル

以上ノ所論ヲ以テ徒ニ欧露トノ通商ヲ急ギ之ニ望ラ嘱スルモノナリト断定スペカラズ縱シ通商ニ闊スル予備協定ガ其ノ締結後直様効果ヲ見ル能ハズタルモ之ニ依リ露国ト円満ナル關係ヲ結ビ我が政府ガ其ノ代表者、實業家、視察員等ヲ自由ニ入露セシメ通商開始ノ時期迄種々ノ準備ヲ為スコト最緊急ナリ露国ノ經濟的復興ハ極メテ徐々ニ多クノ歲月ヲ要スペシタルモ嘗テ破壞ヲ之レ事トセル過激派ノ露國モ今ヤ方ニ建設的經濟復興ノ準備時代ニ入レルハ何人モ

首肯スル所ニシテ此ノ貴重ナル時期ニ於テ獨リ日本ガ恰モ露國ト敵対ノ關係アルモノノ如ク彼等ガ本邦人ノ入露ヲ許サザルノミナラズ内ハ盛ニ吾ニ向ッテ敵愾心ヲ鼓吹シ外益益排日熱ヲ宣伝シツタル現状ヲ以テスレバ帝國将来ノ対露發展上吾ハ遂ニ列國ノ後塵ヲ拝スルコトナキヤラ憂フルノミ本使ハ最近会談ノ機會ヲ得タル林、日置二大使モ大体ニ於テ本使ト反対ノ意見ヲ有セラレザルモノノ如ク帝國政府モ又撤兵ヲ緊急ノ懸案トセラルルヤニ思考スルニ付茲ニ聊卑見ヲ具陳シテ御参考ニ供スル次第ナリ

在歐米各大使、瑞典、和蘭公使へ暗号ノ儘郵送セリ

註 大正十年川上公使堯内田外務大臣宛電報第四六号ニ付テハ

日本外交文書大正十年第一冊下巻六八八文書(七〇三頁)參看

二八一 七月十四日 佐藤海牙會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

海牙會議露国代表リトヴィノフト伯林ニ於テ

会見シ差支無キヤ請訓ノ件

第五五号

(七月十五日接受)

往電第四〇号ニテ申述ベタル通リ「リトヴィノフト」トノ再度ノ会見ハ會議ノ趨勢ニ鑑ミ態ト差控ヘ居リタル処十三日

一四 日本国及労農露国間国交問題関係一件 二八一

一四 日本国及労農露国間国交問題関係一件 二八三 二八四

三八〇

バ必ズシモ当方ヨリ特ニ進ンデ会見ヲ求メタル如キ印象ヲ
与フルヨト無カル可シト思考ス就テハ右事情御考慮ノ上伯

林ニ於テ「リ」ト会見ノ件ニ閑シ強ヒテ御異存ナカル可キ

ヤ及会見ノ際特ニ先方ノ意向問合ス可キ箇条ノ有無大至急

御回訓ヲ請フ佐藤ハ十九日ノ本会議ヲ済マセ翌日伯林ニ赴

ク考ニ付右御訓電ハ十九日中ニ到着スル様御取計ヲ請フ勿論今回ノ会談ハ佐藤一己ノ資格ニテ為スペク主トシテ先方ノ意向ヲ尋ヌルニ止ム可シ

英、仏、独、ヘ転電シ蘭ヘ郵送セリ

二八三

七月十五日 在蘭國田付公使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

佐藤リトヴィノフ会見ハ慎重ナル考慮ヲ要ス

ル旨稟申ノ件

第四六号

（七月十六日接受）

佐藤発往電第五五号ニ閑シ

本件消息外間ニ伝ハリタル場合（殊ニ露國側ヨリノ漏洩ヲ

恐ル）世間一般殊ニ聯合側諸國ヨリ重大ナル誤解ヲ招クノ

虞ナシトセズ本件慎重御考慮ヲ仰グ

第一一五号

（十月八日接受）

二八四 十月六日 在波蘭國川上公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

長春會議決裂後ノ状勢ニ閑シ報告ノ件

九月二十三日「イズベスチア」紙上「ラデック」ハ日本ノ

樺太占領ヲ非難シ尼港事件ハ日本ニモ責任アリ露國ハ同島ニ対スル日本ノ投資ヲ歓迎スルモ露國ハ支那ニアラサルカ故ニ支那ニ対シ独逸カ曾テ取りタルカ如キ政策ヲ樺太ニ対シ日本カ取ルコトハ許シ難シ尚日本ハ過般ノ華府會議ニ於テ極東ノ現状維持ヲ列国ニ約シタリ今樺太領有ノ問題起ラ

ンカ之ニ反対スルモノハ敢テ露國ニ限ラス米国亦必ス抗議スヘシト論シタルカ一方十月四日当地新聞莫斯科電報ニ依レハ「レーニン」ハ病氣回復後昨今内外政策上其ノ勢力次

第二顧著トナリ來レルカ一旦決戦セル長春會議復活ノ目的ヲ以テ病氣ト称シ「ヨッフェ」ヲ依然長春ニ留メ置クモ右

「レーニン」ノ意思ニ基クモノナリトセリ而シテ「レーニン」ハ日本ト条約ヲ締結セントセハ更ニ多大ノ讓歩殊ニ北

樺太問題ニ付讓歩セサルヘカラスト為スモノノ如シト報道シ居レリ

露問題ニ閑スル意見ニ付考察ノ件

後藤子爵及目賀田男爵連名ニテ文書ヲ以テ外務大臣ニ提出

セラレタル對露關係ニ於テ政府トシテ現下直チニ施為スヘキ事項ノ第一ニ閑シ歐露ノ実状ヲ確ムル為適當ナル我国人ヲ該地ニ至ラシムルコトハ必要ナルヲ以テ外務省ハコレ迄再三外務省員（個人ノ資格トシテ）又ハ邦人ヲ該地ニ至ラシメント試ミタルモ我軍西伯利ニ駐在スル為労農政府ハ我ヲ敵視シ為ニ其目的ヲ達スルヲ得サリシ次第ナルモ今度我軍カ西伯利ヨリ撤退スル以上同政府カ我ヲ敵視スルノ原因消滅スルニ至ルヘシ就テハ外務省ハ撤兵完成ヲ機トシ欧米諸國ノ例ニ倣ヒ邦人ヲ該地ニ至ラシムルノ考ヲ有スルノミナラス出来得ヘケンハ非公式代表者ヲ欧露ニ派スルノ考ナリ次ニ欧露ノ実状ヲ確ムル為外人利用ノ件ニ閑シテハ外務省ハ歐洲方面ニ在ル公館ヲシテ夙ニ実行シツツアリテ現ニ在伯林帝國大使館ハ同地有力新聞記者ヲ露都ニ派シ彼地ノ実状ヲ調査セシメツツアリ

又右事項ノ第一ニ閑シ露國本土ニ接近スル芬蘭、波蘭、
ヲ切望シツツアルハ蔽フヘカラサル事實ナレハ今後遠カラス彼ヨリ何等カノ形式ヲ以テ改メテ談判ノ申込ヲ為スヤモ計リ難カラシ御参考迄
在欧各大使及在瑞典公使ヘ暗送セリ

二八五 十月二十七日

上田公使館一等書記官ヨリ

後藤子爵及目賀田男爵ヨリ外務大臣ニ提出ノ件

一四 日本国及労農露国間国交問題関係一件 二八五

三八一

一四 日本国及勞農露國間國交問題關係一件 二八五

三八二

諸省ノ技術的能力アル官吏ヲ派遣スルコト有利ナルヘキモ同官吏等ハ外國ニ於テハ諸種ノ関係上外務省ノ助力ニ依ルニアラサレハ其任務ヲ全フシ得サルヘキノミナラス又外務省トシテモ彼地ノ実状ヲ確ムルノ必要アルト同時ニ彼地ヨリ露國ノ内情ヲ観測スルノ必要アルヲ以テ外務省部内ニハ近キ将来ニ於テ歐洲方面ニ露西亞調查部ヲ設ケ柏林ニ本部ヲ置キ前記各地ニ支部員トシテ外交代表者ヲ派スルノ議アルカ同議實行ノ場合ニハ右諸省ノ官吏ハ勿論陸海軍其他各省官吏ニシテ同様特種ノ任務ヲ有スル者ハ表面外ニ向ツテハ右露西亞調査本部又ハ支部員ノ資格ヲ以テ任務ヲ実行スルコト有効ナルヘシ

又右事項ノ第三ニ閔シ露國邊境隣接諸國ニ通商開始拡張其他ノ目的ヲ以テ政府カ実業家ノ視察ヲ促スコト肝要ナルヲ以テ外務省ハ時機ヲ見テ農商務省ト交渉シ之カ視察ヲ促ス考ナリ又外務省ハ本目的ヲ達スル為将来必要ニ応シ右諸国ニ商務官ヲ派スルノ方針ヲ有ス
又右事項ノ第四ニ閔シ将来露國及露國邊境隣接諸國ニ対スル通商其他諸般ノ事業ニ從事スヘキ者ヲ養成スル為右諸国ニ留学生ヲ派遣スルノ必要アルヲ以テ外務省ハ機會ヲ見テ

ノナルヲ以テ外務省トシテハ此際赤十字社カ出來得ル丈ケ広キ範囲ニ於テ之カ施与ニ從事スルコトヲ希望ス
又最後ニ右事項ノ第八ニ閔シ外務省ハ朝鮮銀行ヲシテ對露貿易資金ヲ運用セシムルコトニハ異議ナシ

二八六 十月二十九日 在ハルビン山内總領事ヨリ 島田副領事ノ日露交渉再開ニ閔スル談話新聞 紙掲載二付報告ノ件
十月二十九日「トリブーナ」紙掲載ノ日露關係ニ閔スル島田副領事談話要領

日露關係ニ閔スル問題ハ今ヤ露國新聞殊ニ日本新聞ニ依リテ盛ニ論議セラレツツアリ
日本新聞ハ勞農露國及極東共和國ヲ一方、日本ヲ他ノ一方トシテ双方ノ間ニ條約ヲ締結スル為近ク第三日露會議ヲ開催スルコトニ閔シ多大ノ注意ヲ払ヒ之ヲ論シツツアリ
予ハ近キ将来ニ於ケル日露關係ヲ如何ニスヘキヤノ問題ニ就キテハ單ニ私見ヲ述フルコトヲ得ルノミナリ

大連及長春會議後日本外交官ハ會議ナル形式ハ日露協約締結ノ為好結果ヲ齎スコト能ハザルヲ了得スルニ至レリ

一四 日本国及勞農露國間國交問題關係一件

二八六 二八七

農商務省ト交渉シ之カ派遣ヲ実現セシムル考ナリ但留学生ノ選定ハ東京外国语学校長及在哈爾賓日露協會學校長ニ一任スル方適當ナルヘシ

又右事項ノ第五ニ閔シ露國航運事業ハ将来外國人力露國ニ於テ營ムヘキ有利事業ノ重ナルモノノ一ニ数ヘラルヲ以テ我日本汽船業者ハ團結シ露西亞人ト共同シ露國國旗ヲ以テ少クトモ黒海阿港ヲ起點トスル大汽船會社ヲ設立スルコト必要ナリ

又右事項ノ第六ニ閔シ露民ノ便利ノ為浦潮斯徳、「ニヨリスク」其他ノ方面ニ日露購買組合ノ組織ヲ促進スルノ必要アルモ未タ同地ノ撤兵完終セサルヲ以テ之ヲ促進スルニ由無シ然レトモ撤兵終リテ右方面ノ秩序恢復シ我日本人在留シテ自由ニ業ヲ營ムヲ得ルニ至リタル場合ニハ外務省ハ之カ組織ヲ促進シ且又間接方法ヲ以テ該事業ヲ援助スヘク又森林、鉱山等ノ事業ヲ日露兩国人共同シテ營ムコトハ露民ノ為ニモ利益ナルヲ以テ外務省ハ政府カ同事業ノ為低利資金ヲ供給スルコトニ賛成ス
又右事項第七ニ閔シ赤十字社ヲシテ露國ノ貧民ニ医薬医療ノ施与ニ從事セシムルコトハ露國民ニ好感ヲ抱カシムルモノ終リシ協定モ大丈夫締結セラルヘシ

現ニ長春會議開会前ニ行ハレタル予備會議ハ本會議ヨリモ実益多カリキ
日本外交ハ日露兩國カ斯ク迄必要トスル協定ヲ締結スル最モ良キ方法ハ両当事國一方ノ首都ニ於テ大ナル権限ヲ有スル他ノ一方ノ使節ヲ迎ヘ交渉スルニアリトノ結論ニ達セリ斯クレハ両当事國ニ關係ナキ大連又ハ長春ニ於テ不成功ニ終リシ協定モ大丈夫締結セラルヘシ
前記ノ交渉ヲ纏ムルニハ相互主義ニ基キ代表者ヲ交換スルコト必要ナリ在東京「アントーノフ」ハ外務省松平伯ト本件ニ閔シ交渉シツツアレハ代表者交換ノ問題ハ無事ニ解決セラルヘクサスレハ日露間予備交渉開始ノ如キハ日常茶飯事ノミ莫斯科ハ東京ニ代表者ヲ送ルヘク日本ハ「チタ」及莫斯科ニ代表者ヲ送ルヘシ
其ノ外兩國ハ各種ノ經濟協約ヲ締結スル權限ヲ有スル商務官ヲ交換スルコトナルヘン云々

二八七

十月三十日

在ハルビン山内總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

北樺太利權及撤兵問題ヲ解決シ日本トノ國交

三八三

ノ島田ニ談話ノ件

(十月三十一日接受)

シ左ノ通申出タリ

第三六九号
十月二十七日島田着任挨拶ノ為「オザルニン」ヲ往訪シタルニ「オ」ハ直ぐ様用談ニ移リ（前略）自分ハ未だ政府ヨリ何等訓令ヲ受ケ居ル次第ニアラサルガ日露善隣關係樹立ハ焦眉ノ急務ナル処例ノ最大難関タル尼港事件ニ關聯シ日露両國ノ立場ニ顧ミ双方好都合ニ解決ゼン為露國側ハ北樺太ニ於テ日本資本家ニ対シ優越ナル条件ニテ利權ヲ与フルコトトシ日本側ハ撤兵ヲ行フコト但日本ガ対内関係上尼港事件解決シタル結果撤兵スルモノナリトノ宣伝ヲ為ストハ差支ナキコトシテ此際基本協定ヲ先ニシ逐次他ノ諸問題ヲ審議スル方法ニテ両國間ニ交渉ヲ開始スルコトトシテハ如何ト、（後略）

二八八 十月三十日 在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

哈爾賓日々新聞機部主筆石原通信員帶同才ザ

ルニント交渉再開問題ニ付意見交換ノ件

第三七一号
(十月三十日接受)

十月二十八日哈爾賓日々新聞機部主筆石原帶同島田ヲ來訪

四〇発)

二八九 十一月五日 在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

オザルニンガ島田ニ對シ極東共和国近ク労農
政府ニ併合ノコト及ヨツフエト打合ノ為近ク

北京へ出張ノコト等内話ノ件

附記 十一月七日在ハルビン石原通信員發松平欧米局

長宛電報

在中国日本公使館ハヨツフエト接触ノ必要アル
旨進言ノ件

(十一月六日接受)

第三八八号
十一月三日「オザルニン」島田ヲ來訪シ極秘トシテ内話セ
ル所左ノ通

(1)沿海州占領後極東共和国民ハ到ル處ニ於テ労農政府トノ
合併ヲ希望シ而シテ労農政府最近ノ状態ハ普通ノ民主国ト
大シテ異ル所ナク寧ロ極東共和国ヨリモ都合好キコトモア
ル位ナレハ外国トノ折合ヲ害スル様ノコトナカルヘキニ付

来ル十一月九日齊多国民議会召集ト同時ニ極東共和国併合
問題附議セラレ十一月九日齊多国民議会召集ト同時ニ極東共和国併合
問題附議セラレ十一月九日齊多国民議会召集ト同時ニ極東共和国併合
問題附議セラレ十一月九日齊多国民議会召集ト同時ニ極東共和国併合
問題附議セラレ十一月九日齊多国民議会召集ト同時に國交問題關係一件
二八九

事実ヲ見ルヘシ自分ハ今日ニ於テモ事實上莫斯科政府ノ委託ヲモ受ケ居ル次第ナルカ十一日頃ニハ莫斯科政府代表者ト変スヘシ

(2)自分カ重要問題ニ付莫斯科ニ打電スレハ莫斯科ハ更ニ「ヨツフエ」ニ打電スルニ付之ニテハ徒ニ三角形ヲ作リ居リ事務進捗セサルニ付セ、八日頃当地發北京ニ赴キ「ヨツフエ」ト打合ノ為一日滯在ノ上帰任真先ニ貴官（島田）ニ面会スルコトニスヘシ右用向ハ

(1)「ヨツフエ」カ曩ニ当地方ノ紛糾セル事情ヲ無視シ東支鐵道問題其ノ他ニ付矯激ナル變化ヲ企テ徒ニ強硬ナル態度ニ出ツルヲ以テ親シク打合セントスルモノナリ莫斯科ハ「ヨツフエ」ノ意見ニノミ重キヲ置キ「ヨツフエ」ノ意見ヲ左右シ得ヘキ材料ヲ有シ居ラス是「チチエリン」カ対日關係ニ於テ粗暴ナル態度ヲ持ス所以ナリ

右ニ付テハ鐵道事務ニ通曉セル「ドルジアン」昨日當地通過北京ニ赴キタルカ「ド」ハ當分「ヨツフエ」ノ補佐役タルヘシ

(2)ハ日露通商開始問題ニ關スルモノナリ本件ニ付テハ北京ヨリ帰来後篤ト懇談致スヘケレト自分見ル所ニテハ今日

莫斯科ノ態度ヲ以テシテハ「ヨ」ヲ無視シテハ何事モ為シ能ハサルヘク而シテ「ヨッフェ」ハ會議ニ依ルコトナク事務的ニ対日談判ヲ行フコトヨリモ対支那其ノ他ノ関係上露國ノ立場ヲ良好ナラシムル様宣伝センカ為盛大ナル會議ヲ開催スルコトヲ希望スヘク殊ニ彼カ東京ニ赴クコトヲ得ルニ於テハ直チニ露國ノ立場擁護ノ宣伝ヲ為スコトカ先ツ彼ノ任務タルヘク從ツテ公式ハ不可能トスルモ非公式ニテモ東京ニ行キタキハ勿論ナリ兎モ角極東共和国併合モ目前ニ迫レル今日ニ当リ日本側ヨリ代表者ヲ齊多ニ派スルモ無益ニシテ直チニ莫斯科ニ派遣スルヲ要ス然ラスンハ貴官(島田)ニ北京出張ヲ請ヒ「ヨッフェ」若クハ其ノ幹部ノ隨員ト連絡ヲ保チ「ヨ」ヲ適當ノ道ニ導カルルコトトセラレタシ是日露両國ノ為ナリ

(附記)

十一月七日在ハルビン石原通信員発松平欧米局長宛電報

在中国日本公使館ハヨッフェト接触ノ必要アル旨進言ノ件

莫斯科政府ハ極東問題ニ関シテハ「ヨッフェ」ノ意見ニ從ヒ彼ノ情報ニ因ルモノデアル故ニ彼ニ接近シテ彼ヨリ情報ヲ得、意見ヲ質スコトガ最必要デアル然ルニ北京日本公使

館ハ彼等ノ訪問ヲ受ケテモ快ク面会モシナイ況シヤ何等ノ聯絡ナドハ取レテ居ナイ此点ハ「ヨッフェ」等ノ特ニ不快ニ感ジテ居ル所デアツテ「オザルニン」モ電報シテ來タ位デアル就テハ目下ノ状態ニ鑑ミ彼等ト接触ヲ保タレルコトガ必要デアル又場合ニ依リテハ特ニ露西亞通ノ官吏派遣ヲ要ス

日露會議開会ニ關シテハ領事館ヨリ電報又ハ磯部氏ノ手紙ヲ島田氏ガ送ツタ通リナルガ最近齊多ヨリ「オザルニン」ノ許ニ返電ガ有リテ本文ハ「ヨッフェ」ト協議セヨトノコトナリシ為此所一二三日内「オザルニン」ハ其ノ為北京ニ行ク(長春經由十一月七日后一、〇五)

二九〇 十一月八日 内田外務大臣(ヨリ)

在ハルビン山内總領事宛(電報)

石原通信員ノ行動ハ誤解セラルル興アルニ付

同人ニ注意スル様訓令ノ件

第一九一号

貴電第三七一号石原ノ行動ハ何等カ當方ノ内意ヲ受ケ居ルヤニモ誤解セラルル虞アルニ付差控方夫レトナク御注意アリタシ

又今回同人ヨリ松平局長宛平文電報ヲ以テ「ヨッフェ」ト接觸方ニ關シ意見具申シ来レル處此ノ如キ電報外界ニ洩ルレハ種々臆説ノ種トナル恐アルニ付今後同人ニ於テ何等当省ニ意見陳述ノ場合ニハ總テ貴官ヲ經由スル様伝ヘラレタシ

尚當方ト同人トノ関係ハ十月限り既ニ断絶シタル次第ナルニ付貴官ニ於テ必要ト認メラルニ於テハ序ノ節「オザルニン」ニ対シ當方ト同人トノ間ニ從來トモ何等ノ関係ナキコトヲ説明セラレ差支ナシ

二九一 十一月十一日 在浦潮堀政務部長(ヨリ)
内田外務大臣宛(電報)
齊多政府陸相ウボレヴィッチガ浦潮出發ニ當
リ日露間ノ友好關係等ニ付政務部員ニ為シタ
ル談話報告ノ件

第三九五号

(十一月十二日接受)

「ウボレヴィッチ」十日当地出發ノ由ヲ聞キタルニ依リ九日部員ヲ派シテ彼カ今後ノ行動其ノ他ニ關シ會談セシメタルニ「ウ」ハ最モ得意ノ態度ニテ來浦以来親シク内外ノ事情殊ニ日本人就中文武代表者側ノ表ハサレタル誠意ト坦懐ノ

ニ在ル處彼等ニ対シテハ生命其ノ他ノ保障ヲ与フルニ依リ可成速ニ船艦ト共ニ當港ニ帰航スル様貴國政府ニ於テ仲介ノ労ヲ取ラレムコトヲ両國親交上切ニ願フ云々ト申出居タル趣ナリ

二九二 十一月十九日 在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

北京ヨリ帰来ノオザルニンガ日露會議再開東
支鐵道問題等ニ関シ島田ニ為セル内話報告ノ

件

第四二二号

（十一月二十日接受）

十一月十九日「オザルニン」島田ヲ來訪シ内話スル所左ノ通

（過日北京ニ赴キ「ヨッフェ」「アントーノフ」ト會見シ日露會議並東支鐵道問題ニ付意見ノ交換ヲ行ヘリ「ヨッフェ」ハ重態ニシテ寢台ニ在リテ終日執務シ居レリ日露會議ハ再開スル必要アルヲ以テ過般小幡公使ニ對シ樺太北半駐兵ニ対スル抗議書中露國側ハ樺太ニ於テ日本ノ「シンジケート」其ノ他各種ノ利權ヲ与へ以テ樺太駐兵問題ヲ解決セントスル用意アル旨ヲ仄メカシ日本側ヲ引出スコトトセリ

論断スルハ早計ナリ

（三）将来ノ日露會議ニ於テ露國側ハ通商條約ノ効力ヲ歐露ニモ拡張ス可キコトヲ主張ス可キハ勿論ナルガ承認問題ニ付日本ガ列國ト別箇ニ単独ニ莫斯科ヲ承認スルガ如キコトハ考ヘラレザルヨリ本問題ヲ提供スルヤ否ヤハ其時ノ具合ニ依ル可シ又通商協定ノ内容ハ長春會議ノ例ニ依ルコト勿論ニシテ他ノ全然新タナル態度ニ於テ談判スル様ノコトハ之無カル可シ

在支公使、奉天ヘ郵送セリ

（四）東支鐵道問題ニ付露國側ガ支那側ニ対シ威嚇的態度ヲ執

リ居ルハ事實ナルモ現時ノ從業員ハ多ク反対党ニシテ東支鐵道ハ實ニ旧將校僧侶等ノ避難民ノ集合所タリ斯ノ如キハ甚ダ好マシカラザルニ付現在ノ露国人幹部ノ者ヲ我方ノ希望スル人物ヲ以テ替ヘルコトニ努力中ニシテ之ガ為ニハ先

（五）露亞銀行ヲシテ東支鐵道トノ關係ヲ絶タシメ露亞銀行ガ入レタル現在ノ者ヲ追出サムトス之ニ対シ支那側モ強ヒテ反対セザル可キヲ信ズ次ギニ鐵道ノ守備ニ關シ少シ許リノ露國守備兵ヲ鐵道ノ各駅ニ配置スルコトハ必要ニシテ之ニ就キテハ支那側ト妥協点ヲ發見シ得可シト信ズ但露國軍隊ヲ強制的ニ入レシメ之ヲ占領セムトセバ數クトモ二万ノ兵

「ヨッフェ」ノ得タル情報ニ依レバ小幡公使ノ後任トシテ松平局長來任ノ由ニ付万事ハ松平公使ノ來任ヲ待ツテ談判ヲ開始スルヲ適切ナリトス「トロツキー」ノ言並自分ヲ經テ往來シタル莫斯科「ヨッフェ」間ノ電報等ニ依ルモ莫斯科長春會議ニ於ケル「ヨッフェ」ノ態度ニ不満ナリシハ事實ニシテ其ノ結果「ヨッフェ」モ昨今何トカシテ速ニ日本トノ協約ヲ成立セシメント考ヘ居レリ「アントーノフ」ハ北京滯在中莫斯科ヨリ召還ノ電命ニ接シタルモ「ヨッフェ」ニ於テ引続キ日本ニ赴キ日本外務當局ト連絡ヲ保タシムルコトトセリ余ハ日本政府ガ此ノ際松平公使ノ北京赴任ヲ速ニ実現セシメ「ヨ」「松」兩者間ニ話セシメバ立所ニ話纏マルベキヲ信ズ但シ會議ニ関シ何等具体的訓令カ既ニ莫斯科ヨリ來リ居ル次第ニハ非ズ

（六）労農政府ノ極東共和国併合ハ行ハレタルモ契約、財政關係ニ於テハ可成從來ノ制度ヲ保持シ國立銀行金貨流通其他ノ自由ヲ保存スベキニ付外国人トシテハ何等憂フル必要ナカルベク從ツテ今回ノ併合ガ日露會議ノ開始ヲ延引セシムルノ理由トハ為ラザルベシ尤モ政治方面ニ於テハ著シキ変化ハアルベシ兎モ角目下万事創業ノ際故現時ノ状態ヲ以テ

高親第五七三八号
リ陳情ノ件
（十一月二十四日接受）

二九三 十一月二十二日 井上大阪府知事ヨリ
永井外務省通商局長等宛
日露通商條約ノ締結ニ付大阪日露貿易協会ヨ

大正十一年十一月二十二日
大阪府知事 井上 孝哉

内務省警保局長殿
農商務省商務局長殿
外務省通商局長殿

大蔵省主税局長殿

一四 日本国及労農露國間國交問題關係一件 二九三

三八九

一四 日本国及勞農露國間國交問題關係一件 二九三

三九〇

大阪日露貿易協会ノ日露通商條約訂結陳情ノ件

去ル十四日大阪商業會議所ニ於テ大阪日露貿易協会役員会ヲ開キ今西林三郎外五名出席西伯利撤兵後ニ於ケル日露通

商關係ニ就キ種々協議ヲ遂ケタル結果先ツ

一、西伯利撤兵後ニ於ケル日露通商貿易ニ関スル善後策ノ件

二、西伯利及浦塩在留邦人救恤ニ關スル件

ノ二項目ニ就キ政府へ陳情書ヲ提出スルコトニ決シ爾來文案起草中ノ處昨廿一日別紙写ノ通脱稿セシヨ以テ一両日中ニ各宛名先へ夫々発送スル趣ナリ尚第二対策トシテハ近日中（来ル廿四日）ニ日露貿易協会ノ總会ヲ開催シ大阪ニ於テ臨時大会ヲ開催スルコトヲ附議シ可決ノ上ハ来ル十二月関西ハ勿論滿鮮地方ノ日露貿易業者ヲモ糾合シ前記二項目ニ関スル徹底的救済方法並日露間永遠ノ円満ナル取引ノ行ハルヘキ施設等ニ就キ協議ヲ為サン計画ナリト云フ

（別紙）

陳情書

革命以來露國政界ノ混亂ハ全然其ノ經濟組織ヲ破壊シ我當

業者カ多年辛酸刻苦ノ結果開拓セシ對露貿易ハタメニ殆ド其ノ根抵ヲ覆サルニ至レリ政府ニ於テモ此ノ点ニ鑑ミル所アリ客年九月大連ニ於テ本夏又長春ニ於テ彼我代表者ヲ會見セシメ兩國通商關係ノ復旧ヲ図リシト雖モ不幸ニシテ何等ノ成果ヲ齎サス遂ニ今回ノ撤兵ヲ實行スルニ至レリ曩ニ寺内内閣西伯利出兵以来我国カ西伯利ニ投シタル軍費幾億万円ナルヲ知ラス而モ今何等獲ル所ナク日露貿易ノ基礎タル条約ノ訂結サヘ見シテ撤兵スルノ已ムナキニ至リタルハ恂ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリトス加之從前浦塩ニ於ケル輸入貨物ハ本邦駐在ノ露國領事若クハ浦塩駐在ノ帝國領事ノ證明書ニ依リ自由ニ陸揚ヲ許シタルモ赤軍占領以來本邦トノ間ニ通商條約未訂結ヲ理由トシテ一切ノ貨物ニ對シテ陸揚ヲ禁止スルノミナラス商船ノ入港ヲモ許容セサルニ至レリ為ニ當業者ノ窮苦名状スヘカラサルモノアリ在留邦人ノ如キモ今ヤ生命財産ノ保護ヲ託スヘキ方法ナキニ依リ殆ト挙ヶテ帰国スルノ慘状ヲ見ルニ至レリ然レトモ元来西伯利ハ地理的關係ニヨリ我國ノ經濟的發展圈内ニ屬スルヲ以テ現時ノ不穩狀態ニシテ一度鎮靜スルニ至ランカ渡航者亦続出スヘキヤ明ナリ果シテ然リトセハ我國トシテ将来西伯利繼大正十一年十一月二十九日後二、五〇）

利ニ対シ如何ナル政策ヲ採用スヘキヤ今ヨリ相当ノ準備ヲ為ササルヘカラス蓋シ其ノ対策ニシテ足ラサルヘシト雖モ吾人當業者ノ見地ヨリセハ第一通商條約ノ訂結ナリ第二

兩國經濟上ノ促進ヲ期スルヲ以テ急務ナリ

ト信ス而シテ經濟上ノ促進ニ付テハ吾人又窃

ト期スル所アリ一定ノ方針ノ下ニ邁進スルノ覚悟ヲ有スルト雖モ先ツ之カ基礎タルヘキ通商條約ニシテ訂結セサルニ於テハ奈何トモ為ス能ハサルナリ庶幾クハ政府當局者ニ於テ吾人當業者ノ苦衷ヲ洞察シ此ノ際適當ノ方法ニ依リ速ニ日露通商條約ノ訂結ニ着手セラレンコトヲ謹シテ陳情仕候

恐慌謹言

大阪日露貿易協会長

今西林三郎

大正十一年月日

内閣總理大臣

農商務大臣

各宛

外務大臣

大藏大臣

二九五 十一月二十九日 在ハルビン山内總領事ヨリ

オザルニンガヨッフェト意見合ハザル為哈爾賓ヲ去ルコト等島田ヘノ内話報告ノ件

第四四〇号

三九一

十一月二十九日鳥田「オザルニン」ト会見ノ際「オ」ノ内
話左ノ通

「ポゴトジン」ハ共産党ニシテ前陸軍法務官タリ中々ノ遣
リ手ナリ十一月五日着哈ノ答ニ付事務引継次第自分ハ莫斯
科又ハ者多ニ赴クヘシ余ノ当地ヲ去ル動機ハ「ヨツフェ」

ト意見合ハサルニ依ル元来我等ノ間ニハ二派アリ余ハ穩健
派ニ属ス即チ東支鐵道問題ニ関シテハ現在ノ「オストロウ

ーモフ」長官ヲ経テ漸次露西亞側ノ希望スル状態ニ導クコ

トトスルヲ実行方法等安全ナリト信ス然ルニ「ヨツフェ」

ハ極東ノ事情ニ通セス寢台ノ上ニアリテ一氣呵成ニ強行セ
ントススノ如キハ予期セサル紛擾ヲ惹起シ実行上危険ヲ伴
フヘシ素ヨリ「ヨツフェ」ノ考ハ良好ナリ要ハ「タクチック」ノ問題ナリトス余ハ露國側トシテハ日本トノ話ヲ定メ
北滿ニ於ケル日露両國勢力範囲ヲ確定シタル上始メテ露支
間ノ北滿ニ於ケル諸問題ヲ解決シ得ヘキモノナリト信ス現
今ノ儘ニテ支那側ト交渉スルモ竟ニ何等ノ効果ヲ得サルヘ
シ夫ニ付テモ「ヨツフェ」ノ権太問題ニ関スル覚書ニ対シ
日本政府カ今日迄全然沈黙ノ態度ニアルハ聊カ意外トスル
所ナリ云々

在支公使、奉天總領事へ郵送セリ

三九二

二九六 十二月十五日 内田外務大臣

貴族院公正会代表者二対シ日露間ノ諸問題等

二対スル我方ノ方針ヲ内田外相ヨリ説明ノ件
内田外務大臣公正会代表者会見要領

(大正十一年十二月十五日)

前略

次ニ對露問題ニ關シテハ西伯利撤兵ヲ機会ニ局面転換ノ必
要アルハ素ヨリ之ヲ認メ居リタル所ニシテ大連長春両會議
モ局面転換ヲ主タル目的トシテ開催シタル次第ナリ然レト
モ如何セン目下露西亞ハ異常ノ変革ヲ実驗シ居リ思想上ノ
懸隔モアリ之トノ交渉難事ナルコトハ獨リ日本ノミナラズ
歐米ニテモ同様ナル「ゼノア」「ヘーグ」ノ両會議及「ロ
ーザンヌ」會議ニ見ルモ明ナリサレト見方ニ依リテハ日本
ハ寧ロ露西亞ニ対シ好位置ニアリト云フヲ得先般迄極東緩
衝国存在シ労農政府ハ同緩衝國ヲ通シテ日本ニ接近シ妥協
ヲナサムト努メ居リタル如キ労農政府カ日本ニ対シ特別ノ
考ヲ有シ居ルモノトモ見ルヲ得ヘシ又實際問題トシテモ両

國間ニ解決ヲ要スル漁業問題カ端緒トナリ實際上ノ必要ニ
迫ラレ交渉開始セラルコトナルヤモ知レス先方ニ誠意
タニアラハ第三回目ノ會議提唱ニ応スル積ニテ茲ニ明言ヲ
憚ルモ多少ノ手段ハ之ヲ講シツツアリ要ハ先方誠意ノ有無
ニ依リ決セラルヘシ

権太撤兵ニ關シテハ長春會議ニ於テ先方ハ強硬ニ之ヲ主張
セルモ我方ハ保証占領ナルヲ以テ尼港事件解決後ニ讓ルコ
トヲ主張シ會議ハ決裂セリ尤モ尼港事件ニ付テハ日本ハ必
スシモ正当政府ノ樹立ヲ待チテ之ヲ解決スルノ意ニアラサ
ルハ長春會議ニ於ケル我言明ニ微シテモ明ナリ然レトモ本
件ノ解決ハ事實上ノ露國政府承認ヲ意味スルコトトナルヘ
ク折角來ルヘキ會議ニ対スル用意ヲナシ居ル次第ナリ

浦潮前政權ノ許与セル利權ニ就テハ現浦潮政權ハ之ヲ否認
シ居ルモ現政權トテモ資金ノ必要ヲ感シ居ルニ付當業者ノ
態度如何ニ依リテハ之ヲ更新スルコト必スシモ難事ニアラ
サルヘク當局ニ於テモ之カ為ニ努力ヲ惜マス尤モ政權不確
定ノ際ニ於ケル利權ノ獲得ハ給テ當業者ノ危險ニ於テ之ヲ
ナスヘキコトハ常ニ注意シ居リタル所ニシテ彼等モ充分之
ヲ了解シ居レハ賠償等ノ問題ハ起ラサル筈ナリ

臣ハ日英米三ヶ國ハ既ニ批准ヲ了シタルモ仏伊両國ハ内政上ノ関係ヨリ批准未了ノ為未タ批准書ノ寄託ヲナス能ハサルモ日英米三国ハ将来ノ実施ヲ予期シテ實質上ノ準備的措置ヲ執リ居ルコトヲ具体的事実ニツキ説明シ尚万一千伊両國ノ批准カ非常遲延シ又ハ拒絕サルル場合ニ於テハ日英米三国間限リ本條約ヲ実施シ得ルコトノ可能ナルヲ確信シ居ルコトヲ附加説明セル處坂本氏ハ日英同盟ニ関係ヲ有スル太平洋ニ關スル四國條約中ヨリモ仏國ヲ離スコトヲ得ルヤト質問アリ大臣ハ既ニ日英米三国間ニ海軍制限協定可能ナル以上右ノ四國條約ヲ三国條約ニ改ムルコトモ亦可能ナリト説明セリ

右ニテ会談終リタルカ公正会委員ハ尚質問シタキ点アルモ今日ハ時間モ遅クナレリ更ニ会見ノ機会ヲ与ヘラレタシト懇請シ本日ノ会見ニテ政府ノ方針大ニ明瞭トナリ満足セリトテ辞去セリ

二九七 十二月二十三日

瀧川神戸商業會議所会頭ヨリ

内田外務大臣宛

日露通商條約締結促進ニ關スル建議ノ件

(十二月二十七日接受)

我對露通商關係ハ露國政變以來全ク阻止セラレ帝國臣民ガ多年開發セル企業並ニ貿易ハ今ヤ根柢ヨリ覆サレツツアルノ状態ニアリ元來露國ハ地域廣大ニシテ單ニ一衣帶水ノ西伯利亞ノミヲ以テスルモ其面積我全領土ノ約二十倍ニ当リ農、林、鉱、漁等幾多ノ天然資源ニ充チ列國ノ等シク羨望スル所ナルト共ニ露國モ亦之ガ開發ヲ外邦ニ求メ一面物資ノ供給ヲ海外ニ俟チツツアルノ状態ニアリ然ルニ西伯利亞撤兵断行セラレ益々經濟力ノ伸暢ヲ要スルノ秋吾人貿易業者ハ此機ヲ逸スルコトナク對露通商ノ回復ト促進トヲ図リ其実現ヲ期スルハ両國共存、共榮ノ永遠策ナリト信ジ本所ハ茲ニ總会一致ノ決議ニ仍リ之ガ対策トシテ速ニ政府ニテ兩國通商條約ヲ締結シ一日モ速ニ我ガ對露企業並ニ通商ヲ統率扶掖セラレントヲ切望シ右建議候也

大正拾壹年拾貳月貳拾參日

神戸商業會議所会頭 潤川 儀作 (印)

外務大臣伯爵

内田 康哉殿

事項一五 露國反過激派關係雜件

二九八 一月一日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮松村總領事宛 (電報)

親米政權ヲ浦潮ニ樹立セントノ米国人ノ策動

スル件

合第一四号

天津伊太利租界ニ滯在中ナリシカ「セメヨノフ」ハ一月六

最近浦潮内閣ノ動搖ニ關シ第六戰隊司令官ヨリ海軍側ヘノ報告ニ依レバ米国人ハ親米政權ヲ樹立セシメンガ為英米人間ニ知己多ク曩ニ英國領事館ニ勤務シタル「セ」配下「ホーツキン」大佐ニ旨ヲ含メ「セ」派タル極右党分子買収ニ手ヲ尽シツツアリトノ説アル趣ナルガ右真相至急取調ノ上電報アリタシ

永井ヘ伝ヘラレタシ

二九九 一月十四日

内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚總領事
華盛頓會議代表領事
各宛 (電報)

天津發哈爾賓ニ向ヒタルセメノフガ浦潮派遣

軍行動地域ニ出入スル場合ノ同軍ノ措置ニ關

三〇〇 一月十七日

在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

親米政權ヲ浦潮ニ樹立セントノ米国人ノ策動

一五 露國反過激派關係雜件 二九八 二九九 三〇〇

三九五